（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和７年度　学校自己評価システムシート（県立妻沼高等学校）

目指す学校像	母校を誇れる生徒を育てる学校

重点目標	1　「学び直しから大学進学まで」を保障するため、分かりやすい授業・伸ばす授業を実践する。 2　「礼儀、身だしなみ、時間厳守」を指導の基本として、思いやりの心と規範意識を醸成する。 3　計画的なキャリア教育等を実践し、進路知識を深めるとともに意識を高め、一人一人の進路を実現する。 4　地域との連携を再開し、学校行事・生徒会活動・部活動等の活性化を図り、開かれた活力ある学校づくりを行う。

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 日常生活は落ち着いており生徒の実態に合わせた学習活動が実施されている 一方で学力の二極化だ進んでいる。外国籍で日本語の理解に苦慮している生徒も多く、提出物が出せない、授業についていけないなどの課題のある生徒も在籍している。 【課題】 ・外国籍の生徒が多く、日本語支援を並行して行いながら円滑な学習活動の推進に努める必要がある。 ・義務教育期間に、何らかの理由でつまづきを経験した生徒が多く、基礎学力の向上・つまづきの克服、日常的な学習習慣を定着に向けた取組が必要である。	・つまづきの解消、基礎学力の定着に向けた取組を継続する。 ・教員個々が授業の工夫改善に取り組み、わかりやすい授業の実践に取り組む。 ・一人1台のタブレットを有効かつ効果的に活用した授業を進める。	①ｶﾙﾃｨﾍﾞｰﾄﾀｲﾑ（ＣＴ）の効果的な実施と充実と進化を中心とした、つまづきの解消と基礎学力定着。 ②学習環境の整備、授業時間の確保を進めると共に、課題等にしっかり取り組み提出する態度を育てる。 ③日本語を母語としない生徒への学習支援など、個に応じた学習支援の充実。 ④授業でのＩＣＴの効果的な活用と実践に努め、わかりやすい授業の工夫改善に取り組む。	①生徒ｱﾝｹｰﾄ「CTの授業は理解できているか」について、数値が前年比で向上したか。（前年95.6%） ②課題等の提出について、指導を徹底できたか。適切に評価できたか。 ③日本語支援が充実できたか。 ③生徒ｱﾝｹｰﾄ「授業にどのように取り組んでいるか」について、「意欲的」の数値が前年比向上したか。 （前年89.5%） ④生徒ｱﾝｹｰﾄ「授業の内容がわかるか」について、前年比向上したか。 （前年：89.2%）				
2	【現状】 学校生活の状況は、概ね落ち着き安定している。しっかりした服装や挨拶ができる生徒が多く、学習環境を混乱させるような生徒もいない。 一方で精神的課題等から長期欠席となる生徒も多く、中途退学や転学につながる生徒の減少が見られない。 【課題】 ・「礼儀・身だしなみ・時間厳守」の指導の基本を定着・浸透させる必要がある。 ・家庭との連携、協力を得ながら、基本的な生活習慣の確立に努める必要がある。 ・生徒個々の状況に応じた生活支援に取り組む必要がある。	・「礼儀・身だしなみ・時間厳守」を継続的かつ丁寧に指導していく。 ・ＳＣや日本語支援員等を効果的に活用し、多面的な生活支援を進める。 ・生徒情報を共有し、個に応じた丁寧な指導に取り組む。	①指導の基本「礼儀・身だしなみ・時間厳守」の定着に、全教職員で丁寧に取り組む。 ②各種講演会等を計画的に実施し、社会規範やルール・マナーの指導を充実させる。 ③ＳＣや日本語支援員等の外部の専門員による支援を充実させ、適時適切な指導による生活支援を充実させる。 ④施設管理、清掃等を充実させ、適切な学習環境を維持する。	①生徒ｱﾝｹｰﾄ「礼儀・身だしなみ・時間厳守を守っているか」について、前年比向上したか。（前年：94.0%） ②地域や企業等を活用した講演会等を実施できたか。 ②生徒指導件数は、前年比減少したか。 （前年：10件） ③生徒ｱﾝｹｰﾄ「学校生活は楽しいか」について、前年比向上したか。 （前年91.0%） ④校内環境の整備は維持できたか。必要 な修繕等に速やかに取り組めたか。				
3	【現状】 就職を希望する生徒が約半数、専門・専修学校希望が約3割、大学短大進学希望は1割程度である。進路に向けた目的意識や就労意識の低い生徒もおり、計画的なキャリア教育の推進が必要である。 【課題】 ・入学当初から、計画的・組織的、意図的にキャリア教育に取り組む必要がある。 ・進路意識や就労意識の向上に向けた、適時適切な指導を行う必要がある。 ・進路指導に配慮を要する生徒に対する個別具体的な情報共有や支援・指導が必要である。	・発達段階に応じた組織的・計画的なキャリア教育、進路指導に取り組み進路意識や就労意欲の向上を図る。 ・生徒や保護者とのコミュニケーションを充実させ、生徒や保護者の意向を踏まえた進路支援を充実させる。	①学年に応じたキャリア教育を計画的に実施し進路意識や就労意欲を向上させる。 ②就職支援ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰや外部機関等を効果的に活用して、個に応じた進路支援を進める。 ③進路希望調査や三者面談等により、生徒個々の進路希望を的確に把握した進路支援に努める。 ④指導経過を振り返り、次年度の取り組みに生かす。	①「進路希望」に関する「生徒アンケー ト」結果のうち「未定」の割合が減少 したか。（前年：11.9%） ②進学(大学・短大・専門）及び就職の進路が決定した生徒の割合が向上した か。（前年：87.3%） ③生徒ｱﾝｹｰﾄにおける「妻沼高校に入学してよかった」と回答した３年生の生徒の割合が向上したか。 （前年：93.5%） ④進路指導部を中心とした指導の振り返 りを実施したか。				
4	【現状】 生徒募集状況は1倍未満の場合が多く、部活動は、活発に活動している部と十分な活動ができていない部が存在する。学校行事等での生徒の自主的・主体的な活動は十分とは言えない。教職員の「働き方改革」を引き続き推進する必要がある。 【課題】 ・継続的な生徒の確保に努める。 ・部活動の活性化、参加意欲の向上を目指す。学校行事等への生徒の主体的活動参加を促す。 ・年間在校等時間３６０時間以上の教職員ゼロを推進する。	・ＨＰでの学校情報の積極的発信等による生徒募集の充実。 ・学校行事等の活性化による、生徒の主体的活動の奨励・支援 ・先生方の「働き方改革」推進による学校活力の強化。	①体験授業を核とした生徒募集を継続し、「学び直し・基礎学力向上」の、指導方針を周知する。 ②学校ＨＰ等による学校情報の積極的発信に努める。 ③部活動加入率の向上を図る ④可能な限り自主的・主体的な学校行事の実施に努める。 ⑤教職員の年間在校時間が360時間を超えた者を段階的にゼロに近づける。 （前年8名）	①保護者ｱﾝｹｰﾄの「妻沼高校に入学させた理由」のうち「学び直しの充実」と回答した割合が、前年比向上したか。（前年45.0%） ②学校ＨＰのｱｸｾｽ件数は増加したか。 ③部活動加入率は向上したか。 （前年：53.6%） ④生徒ｱﾝｹｰﾄの「学校生活は楽しいか」について、「楽しい」と回答した割合が前年比向上したか。 （前年：91.0%） ⑤教職員の年間在校時間が360時間を超えた者が、限りなくゼロに近づいたか。（前年8/35名）				